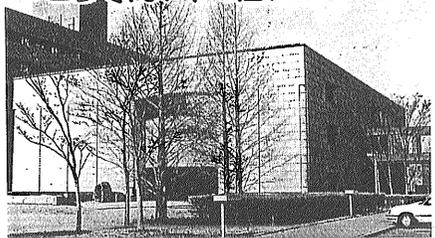


# 地質標本館だより



No.52

## 地質標本館グラフィックスシリーズ —地質調査所の地学普及用ポスター—

地質標本館では、来館の記念として気軽に持ち帰ることができ、そしてできるだけ地球科学を社会に普及させ、あるいは学校の教材として利用できるように、地質標本館グラフィックスシリーズとしてこれまでに4種類のポスターを作成しました。これらのポスターは来館した希望者に無料で頒布されています。また、海外からの見学者に便利であるよう

に英語も併記するよう心がけています。以下にこれまでで出版されたポスターを簡単に紹介します。

### 1. 「地球と生物の歴史」(縦915mm×横405mm) (利光誠一・佐藤喜男・坂野靖行編集, 写真1)

1993年度の展示改修として地質標本館第1展示室入り口にあるカラーコルトンの改修に当たり、地質年表を新規に作成しました。これが好評を博したので、地質標本館の開館15周年を機会に、展示をベースとしたポスター化を行いました(1995年3月)。左端に地質年代スケールを置き、主部には生物の大分類群の消長の過程を線の太さなどで表現し、太古に繁栄した代表的な古生物のイラスト100点余りを配しました。右端にはプレートテクトニクスに基づく大陸移動の様子や代表的な地質現象を記述しています。このポスターは1996年3月に改訂版が出版され、IGC(北京)で地質調査所の記念品として配布されるなど、幅広い層に人気があります。この年表についての詳しい紹介は利光ほか(1994)にあります。

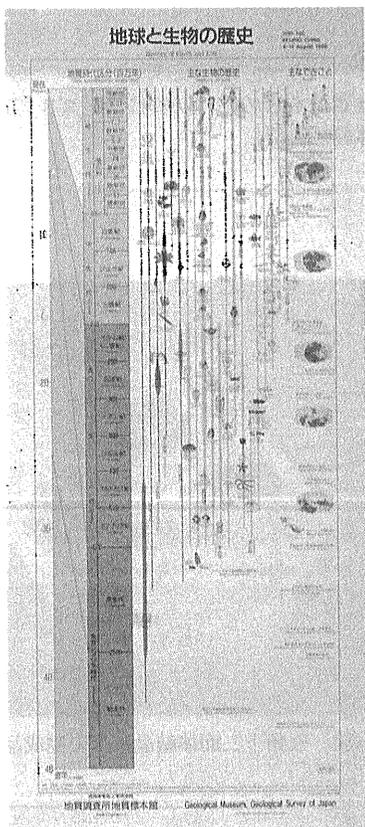


写真1 地質標本館グラフィックスシリーズ1「地球と生物の歴史」。

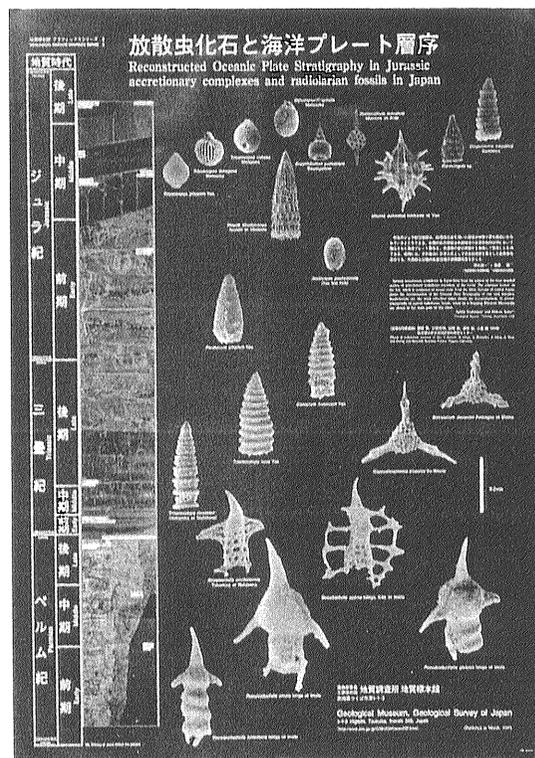


写真2 地質標本館グラフィックスシリーズ2「放散虫化石と海洋プレート層序」。

2. 「放散虫化石と海洋プレート層序」(A1版) (利光誠一・齋藤 眞編集, 写真2)

1995年度に地質標本館の第1展示室に「付加帯の形成と放散虫化石」のコーナーを新設し, 日本のペルム紀~ジュラ紀の代表的な放散虫化石の電子顕微鏡(SEM)写真を所外の研究者から収集する機会を得ました。この展示を基に, 美濃帯の実物の岩石研磨片を用いた復元海洋プレート層序の柱状模型の写真を左端に, 中央に22種の化石の写真をそれぞれの産出層準に配したポスターを作成しました(1997年3月)。化石写真はスケールを統一させたため, ペルム紀からジュラ紀へと時代が若くなるに従いそのサイズが小さくなっていくという面白い特性が表現されました。このポスターはやや専門的であるため, 地質の研究者や学生に人気があります。この放散虫ポスター及び展示に関する詳しい紹介は齋藤ほか(1997)にあります。

3. 「五角十二面体結晶模型」(B4版) (坂野靖行・豊 遙秋編集, 写真3)

1997年夏の特別展示「ジュムストーンの魅力」の開催を機に出版されました(1997年7月)。B4サイズの厚紙に五角十二面体の展開図, 秋田県尾去沢鉱山産の黄鉄鉱の写真, 等軸晶系の結晶形態例及び解説文が印刷されています。この結晶模型が通常と異なる点は, 12面あることを利用して各面に誕生石の写真を配し, 玩具的要素を取り入れていることです。誕生石はすべて地質標本館所蔵のもので, できるだけ日本産のものを選んであります。実際に結晶模型が作成可能で, 展開図の外側をはさみなどで切抜き, 折り目をつけ, のりしろに記されている番号順にのり付けをしていけば完成です。のり付け作業は最後になる程難しくなります。一番最後ののりしろは少し短くなっているので, うまくいかない場合はそのすきまにつまようじなどを入れて接着面の移動を行うと良いでしょう。できあがると径約9cmの五角十二面体になります(写真4)。五角十二面体に結晶する代表的な鉱物は黄鉄鉱です。できあがった模型と尾去沢鉱山産の黄鉄鉱の写真とを比べてみて下さい。良く似ていることが分かると思います。このシリーズ3は学校の先生方か



写真3 地質標本館グラフィックスシリーズ3「五角十二面体結晶模型」。

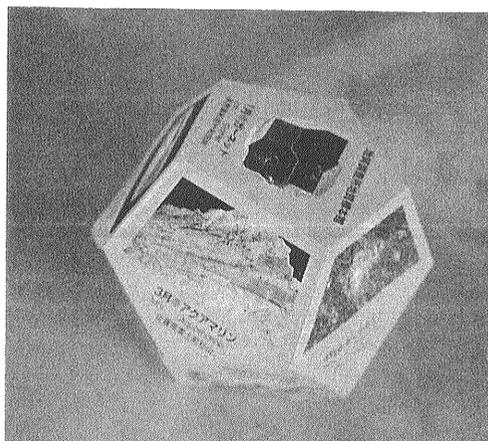


写真4 五角十二面体結晶模型の完成品。

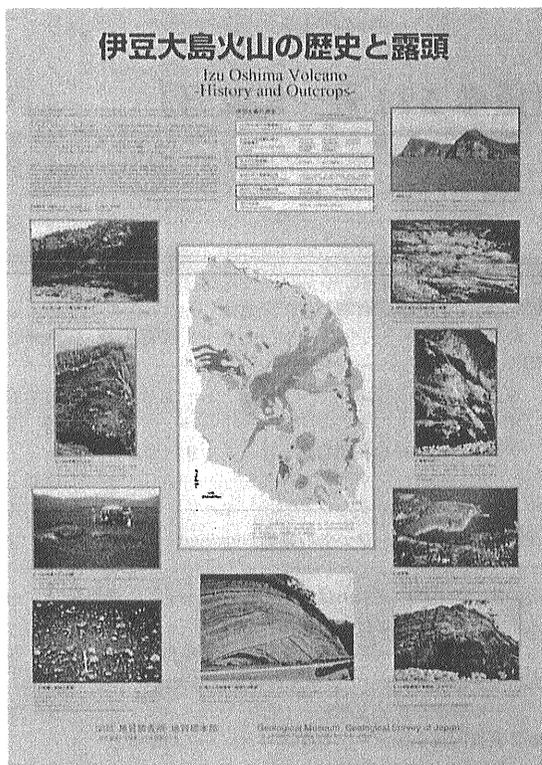


写真5 地質標本館グラフィックスシリーズ4「伊豆大島火山の歴史と露頭」。

ら教材として利用したいという問い合わせも多く、幅広い層に人気があります。

4. 「伊豆大島火山の歴史と露頭」(A1版)(川辺禎久編集, 写真5)

1998年3月に出版された「伊豆大島火山地質図」(川辺, 1998)と並行して作成されました。これは伊豆大島火山の地質図に、過去6回の火山活動に関係した堆積物や地形などの写真10枚を配したものです。地質図, 写真とも仕上りは綺麗で、インテリアとしての人気も高く、前述の火山地質図と合わせれば、そのまま巡検ガイドとして利用できます。

(坂野靖行・利光誠一)

参考文献

川辺禎久(1998):「伊豆大島火山地質図」, 火山地質図10, 地質調査所。  
斎藤 眞・利光誠一・杉山和弘・竹内 誠・栗本史雄・中江 訓(1997):ジュラ紀付加帯の形成と放散虫化石-地質標本館新規展示解説-, 地質ニュース, no.514, 7-13。  
利光誠一・佐藤喜男・坂野靖行・小沢泰子(1994):地質標本館だより No.33, 新装なったカラーコルトン「地球と生物の歴史」, 地質ニュース, no.483, 63-66。